



ソマ・ヴェスヴィアーナの遺跡出土の大理石彫像のレプリカを使った「火山噴火時の文化財レスキュー」の訓練
(Somma Vesuviana, Napoli, Italia © 東京大学ソマ・ヴェスヴィアーナ遺跡発掘調査団) @松田陽



世界遺産メリダ市内のローマの水道橋で暮らすコウノトリ
(スペイン, メリダ市, 2012年) @関雄二



日本調査団が発掘した
クントウル・ワシ遺跡の
デザインが入った
1 ヌエボ・ソル硬貨
(ペルー, 2012年) @関雄二



2008年に独立宣言したコソボ共和国を走るタクシーに登場する新石器時代の土偶。この土偶は同共和国の国旗のイメージとしても採用されかけた。
@松田陽



クントウル・ワシ遺跡の名前を冠し、石彫や石壁をデザインに取り入れたカジノ
(ペルー, カハマルカ市, 2013年) @関雄二



【アイヌ語由来の地名】知床ウトロ地区にある通称「ゴジラ岩」は、景観の構成要素の一つになっている。写真からも分かるように、岩と岩の間に細い道があり、かつては村と浜辺をつなぐ道として利用されていた。そのため、この近辺は「ウトゥル・チ・クシ・イ (uturu-ci-kus-i = その間を・我らが・通行する・所)」と呼ばれるようになり「ウトロ」の語源になった、とアイヌの言語学者である知里真志保は説明している (1955年『斜里町史』)。先人たちの精神文化や彼ら／彼女らを取り巻いていた景観も遺産と捉えるならば、ウトロをはじめとするアイヌ語由来の地名は、先住民族として暮らしていたアイヌの人々の文化を現代に伝える遺産だと言える。
@岡田真弓



JR 横須賀線・田浦駅 (神奈川県横須賀市)

「谷戸地形」を呈する周辺地域は、トンネルが多い。この駅も両端をトンネルで挟まれており、プラットホームが11両編成の長大な通勤形列車を捌くに十分な長さ確保できない。トンネル内に停車することとなる前方の車両ではドアを開けることができず、乗降客は2両目以降に移動しなければならない。このような負の条件が、トンネル内での「ドアカット」というあまりにも珍しい光景を生み出し、多くの鉄道ファンを魅了し続けてきた。今や「名所」と呼べる駅である。一見、滑稽なこの光景。しかしその背後には、明治時代に軍事鉄道として整備され、戦後の急激な宅地化によって東京圏の通勤鉄道へと変貌する横須賀線そのものの歴史が深く刻まれている。
@岡田昌彰



【浜離宮恩賜庭園と汐留】特別名勝及び特別史跡旧浜離宮庭園と汐留地区の巨大複合都市“汐留シオサイト (siosite)”。新橋駅に隣接してあった汐留貨物駅が1986に廃止され、1995年から2004年にかけての再開発によって生まれ変わった“汐留”は、いまや“お台場”や“六本木ヒルズ”、そして、“東京スカイツリー”などと並ぶ東京の新しい観光名所としてよく知られている。高層ビル群は主景たる汐入の池の水面にまでその姿を映し、文化財庭園保存の立場からは望ましくないと考えられるこの風景は、未来と過去が共生するメガロポリスへの歓迎の象徴として、かつて羽田空港到着口に大きく掲げられていたこともある。左の写真には、“汐留”を背景に記念写真を撮影する団体 (右上: 同位置からの写真) が写る。右下の写真はこの構図に向かって写生する人々。
@平澤毅



豊郷小学校旧校舎（滋賀県豊郷町）

- * 1937年、アメリカ人建築家ウィリアム・ヴォーリズ的设计によって竣工した名建築。1999年に始まる解体計画を巡っては、町長と町民との間に激しい対立を生み、全国的に注目を浴びた。最終的には保存が決定するが、その後予想もしなかった新しい眼差しが注がれることとなる。2009年、この建築をモデルとしたアニメが大ヒットし、今や「アニメファンの聖地」と化したのである。ここには連日、コスプレをまとったアニメファンが多数訪れ、旧図書館を転用した喫茶店には一見異様な雰囲気が漂う。売店ではアニメ関連のグッズが売れる。アニメの巨大なイラストの描かれた家用車がエンジン音を鳴らす。オタクの力は、ついに架空の物語を現実化する装置へと、文化財を変えてしまった。旧校舎内はその3年後（2012年）、登録有形文化財に登録された。 左写真@岡田昌彰
- * ヴォーリズによる建築として著名な旧豊郷小学校校舎は、一度は老朽化のため解体されると決まったが、保存を求める声により残されることとなった。その後、アニメ『けいおん!』の舞台のモデルとされたことから、いわゆる「聖地巡礼」としてファンが訪れるようになり、現在ではアマチュアバンドの演奏会やコスプレ撮影会など、さまざまな催しに活用されている。（モデル：小野愛代さん） 右写真@石村智



トイトツキのトーチカ（北海道豊頃町）

太平洋戦争末期1944年に整備されたトーチカ。ここには現在、お宮が加えられている。一見、戦没者慰霊を目的としたものにさえ見える。実は戦後、この「国防目的で沿岸部に設置された巨大コンクリート塊」は、定置網漁のアンカーとして地元の漁師たちに重宝された。やがて、大漁祈願の神を祭るべき対象へと昇華したのだった。「八百万の神」という日本の文化体系の一部を垣間見ることができるが、同時にこれは、使えるものを大切に使い続けながら戦後の苦難を乗り越えた日本人の逞しさが反映されているように思えてならない。 @岡田昌彰



熱田神宮境内の眼鏡碑（愛知県名古屋市）

草薙の剣を御神体とする熱田神宮の境内に、玉祖命を崇拝し眼鏡の功德に感謝しつつ60年余りにわたって生業に勤しんできた名古屋眼鏡商業協同組合が、啓蒙と精神文化向上の一助とすべく、著名な彫刻家の手による遮光器（メガネ）土偶の模倣像を据えて建立した顕彰碑。 @松田陽

三井化学の排気塔：通称「大竹のエッフェル塔」
（広島県大竹市～山口県和木町） @岡田昌彰
※本文 37 頁参照



世界遺産チャビン・デ・ワタル遺跡の神殿入り口をデザインに取り入れた公園（ペルー、チャビン・デ・ワタル村、2009年）@関雄二



日干しレンガでできたピラミッドのそばで、遺構の建材を利用する焼きレンガ窯（ペルー、ランバイエケ地方、1996年）@関雄二



Playden Oasts Hotel, East Sussex, UK
※オーストを転用したB&B



Fake Oast,
Foresters Leisure Park,
Derbyshire, UK

英国伝統ビール「エール」の製造に不可欠なホップの乾燥窯、オースト。現在はその機能を失いながらも、ケント州などイングランド南東部やウースター州の一部に現存している。ただし、ここダービシャーには建設の記録は無い。一見本物と見間違いが、これは偽物である。英国中級ホテルチェーン Premier Inn の支店の1つであり、「Oast House」という名称を掲げている。実際、ケント州などでは本物のオーストは地域センターや高級住宅、B&Bなどに転用されている。それがいつしかブランドとなり、このような確信犯的フェイクの出現に至ったのだろう。

@岡田昌彰



アンデス・アマゾン of 遺跡カラヒーヤの埋葬用象形棺をデザインしたホテルのランプ（ペルー、レイメバンバ市、2013年撮影 八百板季穂）

@関雄二



100年前の殺人現場であることを掲げて営業するパブ。Norwich, UK @松田陽



イタリア、ポッツォーリの町にあるレストラン「廃墟」"Il Rudere"。古代ローマ時代の壁体を見ながら食事をお楽しみあれ。 @松田陽



世界遺産ペトラ（ヨルダン）にあるお土産屋さん。インディアン・ジョーンズの映画がペトラで撮影されたこともあって、やっぱりここにはインディアンが登場して、買い物を促している。 @松田陽



世界遺産バールベック（レバノン）の遺跡内に設置されたトイレ。ローマ時代の壁を見ながら用が足せる。 @松田陽